

『学校創立4年目！

幼保小連携0からのスタート！』

大きな学校と小さな園との  
豊かな学びを考える

### 箕輪地区

- ◆ テンダーラビング保育園綱島東
- ◆ にじいろ保育園日吉
- ◆ アスク日吉東保育園
- ◆ グローバルキッズ綱島園
- ◆ キッズパートナー綱島東
- ◆ 木下の保育園綱島東
- ◆ 箕輪小学校



## 推進テーマ設定の理由

開校してから4年目を迎えたものの、コロナ禍で幼保小の連携を立ち上げることすらできない状況が続いていた。昨年度末にようやく近隣の保育園の園児と1年生の交流が実現したところである。特別のことはできないが、本事業を通して幼保小の連携を密にしていきたいと考え応募した。

## 推進内容

- ・小学生と園児と一緒に活動する機会を通して、お互いに成長することへの期待や喜びを共有できる交流を目指す。
- ・はじめの一步、小さな一步を大切に育てながら持続可能な交流を考える。

## 今年度の重点課題 ～今年度力を入れたこと～

- ・子どもたちの交流や活動も大事だが、職員同士の理解を深める機会を大切にする。
- ・取組の1年目なので、地域、保護者への周知と理解を深めてもらえるようにする

## 連携推進事業の実際

- ◇園長校長顔合わせ 4 / 24
- ◇まちとともに歩む学校づくり懇話会 6 / 6
- ◇メンターチーム保育園体験 7 / 24 ~ 8 / 2
- ◇学校と園の職員打ち合わせ 7 / 25
- ◇学校見学会「箕輪小学校ってどんなところ」 9 / 11 10 / 2 12 / 14
- ◇大人と子供のための読み聞かせの会と顔合わせの会 11 / 8
- ◇「たのしいすご6あきまつり」(生活科「あきといっしょに」) 11 / 30

# まちとともに歩む 学校づくり懇話会

2023.6.6

まち懇に各保育園の園長先生も参加し、  
地域の方々に幼保小教育交流事業について説明し、応援していただくようお願いしました。





## 保育園体験 (メンター研修)

メンターチームが夏休みを利用して各保育園で1日体験をしました。これから入学してくる子どもたちの様子を知る貴重な機会となりました。

保育園	参加教諭	打ち合わせ日	体験実施日
テンダーラビング保育園 綱島東	2名	7月7日	7月26日
にじいろ保育園日吉	2名	7月6日	7月27日
アスク日吉東保育園	3名	7月4日	8月2日
グローバルキッズ綱島園	2名	7月5日	7月24日
キッズパートナー綱島東	2名	6月28日	7月11日
木下の保育園綱島東	2名	7月10日	7月26日

現在1年生の担任をしており、四月に話の聞き方などの指導をかなり行ったが、保育園で十分な力がついていると分かっていたら、もっと早く学級づくりが進められたと反省。

次1年生の担任になったら、練習してきている子いるのを意識して、指導しようと思いました。

自分で遊び方を考えて遊べる材料が豊富にあり、必要な材を豊富に用意しておくことが必要なのは、小学校と共通している。

言動の目立つ子を前にしたときに、保育園も小学校も、同じように一人の「この子」に対してどのようにかかわるか、ということ而努力する点では共通している。

体操教室のとび箱では、小学校の体育学習と共通している。保育園から小学校へのつながりを意識した授業づくりができそうです。

主体的に行動する素地が築かれていることを知り、小学校の現場でもそうした素晴らしい学びが途切れることのないようにしなければと強く感じた。

1年生は、保育園で学んできたことがたくさんありそれを活かす力をもっていると学んだ。これまでの学びを活かせるよう支援していく必要がある。

「勉強したい!」「国語、算数をやってみたい。」と、わくわくした様子の子もいれば、「勉強ってむずかしいんでしょ?」と不安そうな子もいました。

日常生活の自立を大切にしていると感じた。遊びの中にも時間を意識、意図的に着替えを設定していた。小学校でも必要な力がたくさん見られました。

## 参加者の感想



# 大人と子供のための読み聞かせの会





## 顔合わせの会

◇交流するクラスが保育園の年長児に11月の「あきまつり」に来てほしいと書いたメッセージカードを手渡した。

◇一緒に遊ぶことを心から楽しみ、最後に靴箱まで見送るときも名残惜しそうに「ばいばい！」を繰り返していた。



「たのしいすご6あきまつり」  
(生活科：あきいっしょに)

2023.11.30

◇集めた秋を使って、お店を開くことになった。  
年長さんを招待して楽しんでもらいたいという意識ももっている様子が準備からもうかがえた。

◇当日は、準備したことを楽しんでもらおうと張り切っている様子が見られた。

◇振り返り  
「年長さんと楽しく遊べて嬉しかった。」  
「年長さんがいっぱい来て嬉しかったです。」  
「どんぐりめいろやさんで保育園の子たちが迷路  
をしてくれたのが嬉しかったです。」



# 成果と課題

## 成果

- ・背伸びをせず、できることから連携をスタートしたのはよかった。
- ・まち懇で幼保小連携について説明し地域の理解と協力を得たのはよかった。
- ・クラス毎に違う保育園とペアで活動できたので、「自分たちが交流するんだ」というモチベーションを高めることにつながり相手意識をもつことができた。
- ・複数の保育園と交流することで、それぞれの違いが理解できた。保育園同士の情報交換の場にもなった。
- ・小学校は、1年生以外の学年も参加する機会があってよかった。

## 課題

- ・複数の保育園と連絡調整が大変だった。
- ・秋は、学校の行事やイベントが多く調整が難しい。
- ・小学校と保育園の相互理解を深めるまでには至っていない。3年間をかけて、互いの教職員が理解を深め、それぞれで生かせるようにしたい。